

本願寺 御歴代門主シリーズ

その二十一

本願寺第二十二代宗主

鏡如(きょうにょ)上人 (一八七六年～一九四八年)

鏡如上人は一八七六(明治九)年十二月、本願寺第二十一代明如(みょうにょ)上人の三子息として誕生されました。一八九八(明治三十一)年、二十三歳で真明皇后(ていめいこうこう)・大正天皇の皇后の姉君・九条籌子(ていしゅう)様と結婚され、その後、一九〇三(明治三十六)年に明如上人の往生のあとを承けて、二十八歳で本願寺の法灯を継承されました。

鏡如上人は大変前衛的な性格の人物であり、鏡如上人の青年時代のころの日本は日清戦争に勝利し欧米諸国と競って海外進出を図っていた時代であり、こうした時代背景のもと、鏡如上人は一八九九(明治三十二年)に日露戦争後の清国各地を視察され、仏教の衰退や西欧人による仏教遺跡の発掘に遺憾の気持ちを持たれました。

また、鏡如上人は欧米の先進文化を摂取する必要性を痛感され、同年より欧米諸国の宗教制度・事情の視察に趣かれ、その研究は広く諸国の歴史や地理などの分野にも及びました。

そして一九〇二(明治三十五年)年には大谷探検隊を組織し、西域仏教遺跡の調査・発掘を開始され、この発掘調査により多くの貴重な仏教遺物を収集され、世界的にも高い評価を得ています。宗主を継承されてからは、海外で学んだ宗教制度を生かしつつに改革を実行され、全国を五教区に分ち、新布教規程を設けて趣旨徹底をはかる体制の確立、事務教範を發布して掌職を明確化、仏教婦人会・仏教青年会の組織を設立、本山役員の方針の制定のほか、一九一一(明治四十四)年に行われた親鸞聖人六百五十回忌大遠忌法要においては団体参拝方式を採用され、この大遠忌法要には百万人を超える参詣者を得ました。



本願寺第二十二代宗主 鏡如(きょうにょ)上人

また、兵庫県武庫郡(現神戸市東灘区本山町北方)丘上に欧州アジア各国の文化を取り入れた別邸「二楽荘(にらくそう)」を造営し、その傍らに武庫中学を開かれ、独自の人材養成にも勤められました。

鏡如上人のご活動は世界文化史上に貢献されるところが非常に大きかったのですが、その反面教団の財政を圧迫するところとなり、負債の返済などを巡る問題から、一九一四(大正三)年に宗主を引退・僧籍を返上して帰俗され、その後は、本名の大谷光瑞の名で、中国では中華民国の孫文政府の最高顧問、日本では内閣顧問などをとめられました。

そのほか、鏡如上人の世界的視野や知識は高く評価され、東欧や各地の開発など国内外で幅広く活躍されました。

また、関東大震災被災後に再建された現在の築地本願寺の本堂の建設に当たっては、鏡如上人と建築家伊藤忠太氏との出会いにより、一九三四(昭和九)年に現在の斬新な古代インド様式の本堂が完成されました。

鏡如上人は第二次大戦の終戦を大陸で迎え、一九四七(昭和二十二)年に大連より引き上げられましたが、翌年十月五日、別府鉄輪の別邸において七十三歳で往生されました。

※参考文献 福岡光超著

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「護持会報恩講」 (善教寺本堂)

十月二十五日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 小泉信了師(兵庫県たつの市浄泉寺)
*送迎マイクバスを運行します。

「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要」 (善教寺本堂)

十一月 十五日(土) 午後一時半

*毎月十六日に勤めておりますが、法事の都合で、十五日に変更いたします。
申し訳ありませんが、ご予定いただきませう、宜しくお願いします。

「報恩講」 (善教寺本堂)

十二月 二日(火) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 天野真隆師(兵庫県揖保郡善導寺)
*送迎マイクバスを運行します。

*お接待当番地区 中郷地区

「除夜会」 (善教寺鐘楼堂)

十二月三十一日(水) 午後十一時四十五分

*鐘楼堂にて除夜の鐘を撞きます。

「元旦会」 (善教寺本堂)

一月一日(木) 午前七時



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp